

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873300939		
法人名	ウェルフェアー株式会社		
事業所名	ウェルフェアー伊丹グループホーム		
所在地	伊丹市野間北5-7-20		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「たとえ小さな一歩でも、昨日より確実に前へ進んでいること」をモットーとし、事業所としては「地域」「信頼」「人づくり」の三本柱を基本理念とし、「あきらめないケア」を大切に事業運営に努めています。信頼から生まれるケア。地域に根付いた施設運営。ウェルフェアー伊丹デイサービスとも協力し、地域に開かれた行事の企画や実施を心がけていく努力を行っている。また、ご利用者の生活に関してはご自身のペースを尊重し役割を持って頂きながら規則正しい生活の中で柔軟な対応をするよう努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

採光よく広さのある共用空間は、適所にテーブル席・ソファを配置しゆっくりくつろげる環境である。近隣に広い公園や店舗があり、気候のよい時期は散歩を日課として出かけている。利用者個々の生活ペースを尊重しながら、日課としての1日2回の体操、脳トレ、テレビ鑑賞、また、洗濯物干しや洗濯物たたみ、書類のシール貼り等、リビングで職員と一緒に楽しく過ごしたり役割づくりが行えるように支援している。施設合同の夏祭りに近隣住民を招待したり、和太鼓・高校生の演奏等のボランティアの来訪、地域の清掃活動への参加、実習生やトライやるウィークの受け入れ等、地域交流と地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員一同、理念を共有し基本理念を見える場所に掲示し、実行に繋げられるように努めている。	事業所独自の理念を策定し、日常的に職員が目にするフロアに掲示し共有を図っている。理念は具体的で実践につなげやすい内容となっており、その中に地域密着型サービスの意義・目的を明示している。散歩等地域への外出時には近隣の人への挨拶を心掛け、ケアの実践についてはフロア会議で理念に立ち戻って振り返る等、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい ;利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日ではないが、近くの公園へ散歩に行き地域の方と話をする機会がある。	買い物や外食時には近隣の店舗を利用し、また、近隣の公園に散歩に出る等、地域に出かける機会を設けている。施設合同の夏祭りに近隣住民を招待し交流している。和太鼓・高校生の演奏等、地域ボランティアの来訪があり利用者の楽しみとなっている。地域の清掃活動への参加、技能実習生やトライやるウィークの受け入れ、認知症介護に関する相談対応など地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症介護の相談窓口になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、2か月に1回のペースで出来ておらずご家族の参加がないが、今年から民生委員、ご家族へ声を掛け参加して頂けるよう努める。	家族代表・地域包括支援センター職員・地域代表等を構成メンバーとし、今年度は7月に1回開催している。会議では利用者状況や事業所の活動状況等をレジュメで説明している。地域包括支援センター職員から地域の高齢者に関する情報提供を受ける等、そこでの意見や情報を運営やサービスに活かすよう努めている。知見者として、他グループホーム管理者への参加の呼びかけを計画している。	年6回の開催、家族・利用者への参加の呼び掛け、議事録の公開が望まれます。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービス連携会や市の相談員が来所され、意見交換を行っている。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がり、利用者状況・事業所の活動状況を伝えている。市が派遣する介護相談員の受け入れを通して市と連携している。ケースワーカーと協働し、福祉援助を要する利用者の支援を行っている。市職員も参加する地域密着型サービス事業者連絡会に参加して、情報交換を行っている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>以前に2Fで利用者一人で行方不明となる事案があり、3Fでも一人で出ようとされる方がおられる為、玄関の施錠はしている。</p>	<p>身体拘束適正化指針を整備している。随時、フロア会議で利用者個別に適正化に向けた検討を行い、拘束をしないケアを実践している。身体拘束廃止に関する研修をフロア会議で実施し、スピーチロックへの留意点等を話し合っている。職員体制に余裕がある時間帯は開錠し、施錠時にも外出の希望があれば職員が対応し閉塞感を感じないように努めている。</p>	<p>フロア会議での検討を拘束適正化委員会として位置付け、3ヶ月に1回以上の実施と職員への議事録の周知を明確にすることが望まれます。また、研修については、実施状況と欠席者への周知を明確にすることが望まれます。</p>
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年、研修を行い意識向上に努めている。また、スタッフ間で注意出来るような関係作りに努めている。</p>	<p>フロア会議で、高齢者虐待防止についての研修を実施している。言葉遣いや対応についての注意事項を、出退勤時に目にする場所に掲示し、職員間で共通認識を持ち不適切ケアの防止に取り組んでいる。管理者層の職員が、話しやすく相談しやすい関係づくりに努め、職員のストレス等が利用者へのケアに影響を与えないよう配慮している。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修を行っている。以前、市民後見人の実習生を受け入れた実績がある。	現在、成年後見制度を活用している利用者が複数あり、後見人への連絡・金銭管理関係書類の提供等を行い、実務を通じて職員が制度について知る機会がある。また、市民後見人の実習生を受け入れた実績もある。今後、活用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり関係機関と連携して支援を行う体制がある。パンフレットを玄関に設置している。	職員が一定の知識を習得できるように、研修や資料回覧などで学ぶ機会を設けることが望まれます。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に説明を行っている。また、改定等があればその都度、説明を行っている。	見学時に、パンフレットでサービス内容の概略を説明し、契約時には重要事項説明書・契約書・各種同意書を用いて、丁寧な説明に努め文書で同意を得ている。特に、リスク説明や重度化対応については詳細に説明している。契約内容の改定を行う時は、改定内容を明確にした書面を送付して同意を得る等、改定内容に応じ適切に対応している。契約の終了時には契約書の条項に沿って、必要に応じて情報提供等を行い、円滑にサービスの移行ができるよう援助している。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の事で何かあれば適時、電話でご家族へ連絡・報告している。また、来訪時にも日ごろの様子を伝えている。	家族の面会時に近況を伝え、また、適宜電話でも報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者の意見・要望は、日々のコミュニケーションから把握に努めている。職員が把握した意見・要望はリーダー・管理者に報告し、また、生活記録に記録して職員間で共有し、迅速な対応に努めている。介護相談員の受け入れにより、利用者が外部者に意見を表す機会を設けている。意見箱も設置している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を行ったり、面談以外でも一人一人と話ができるようにしている。	各フロアフロア会議に管理者も出席し、職員の意見・提案を把握している。管理者が定期的には年に1回、また、随時にも個人面談を行い、個別に意見等を聴く機会も設けている。管理者がエリア会議で上位者に職員の意見等を伝える仕組みがあり、法人として、職員が直接意見等を伝えられる「ヘルプライン制度」も設置している。職員の意見を集約して月間目標を設定したり、シルバー人材センターの活用により業務の効率化を図る等、職員の意見・提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人と話が出来るように話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当制で月に1回、院内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡会を定期的に行っており交流の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ間での情報交換を行いカンファレンスをしている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居生活の様子を伝え報告し関わっていくことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時面談の情報以外でも情報交換に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、ソファで座ってテレビを見たり、他愛もない話をして同じ空間を共有して関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には一緒に話をしたりして時間を共にしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ外泊したり外出したりと家族で過ごす時間を継続して支援できるように努めている。また、姉妹で面会に来られたりしている。	家族・友人・知人等の面会が多く、来訪時には居室でゆっくり団らん・交流ができるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。自宅への外泊・外出等、馴染みの場所には家族が同行されるため、外出に必要な支援を行っている。近年、年賀状等手紙のやり取りは困難になってきたが、電話での関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ前等と同じテーブルの人たちでお手玉や歌を歌う等されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの方なら、偶然道で会うことがあるので近況を聞くことはあります。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の希望、要望を聞きながら、以降に近いサービスを提供するように努めています。	日々の利用者との会話の中で、利用者の発言によく耳を傾け、思いや意向等を把握できるよう努めている。把握が困難な利用者には、表情や反応を観察して汲み取れるように努めたり、家族からの情報や意見を参考にしている。把握した思いや意向は、日々の申し送りや生活記録等で共有し、個別の支援に反映し、計画見直し時には計画内容に反映させるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃よりコミュニケーションを図りながら把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行うことと、日ごろからの本人の表情を観察することで現状を把握しDrへ報告、相談している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行っている。	入居前事業所の基本情報、入居時に作成した介護サマリー等を参考に、概ね1ヶ月間の暫定介護計画を作成している。当初「日常生活24時間チェックシート」で生活の様子等を確認し、本計画書を作成している。計画書を申し送りノートに綴じて計画内容を職員間で共有し、日々のケアの実施状況を生活記録に記載している。3ヶ月毎にフロア会議でプランカンファレンスを実施し、モニタリング・評価を行い認定期間と整合を図りながら6ヶ月毎に見直しを行っている。見直し時には、かかりつけ医や看護師の意見等を家族の了解を得て計画に採り入れている。	事業所としてのフェイスシート・アセスメントシートの整備と、介護計画見直し時の再アセスメントの実施が望まれます。また、介護計画の支援内容に沿った記録の工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時以外でも気づいた時には記録へ記入しDrやご家族へ報告している。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応出来るように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの生活が中心となり地域との交流は殆どないが行事がある時は参加して楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診をして頂いている。また、状況によっては往診日以外でもDrが来られ様子を見て下さることもある。	月2回協力医療機関の医師の訪問診療を、希望に応じて皮膚科・循環器内科・歯科の往診、精神科訪問看護を利用できる体制がある。他科受診での通院介助は基本的に家族が行っているが、状況に応じて事業所も臨機応変に対応している。利用者の状況について、協力医療機関には毎週情報提供し、家族が通院介助を行う際は必要に応じてメモを託け連携している。往診・通院時の事前の情報提供や受診結果など、医療に関する事項は、「診療記録」に記録し職員間で共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との報告、連絡の連携は取れており、状態によってはすぐにDrと連絡を取って下さりスムーズに連携が取れている。また、併設のディサービスの看護師にも相談することもある。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し情報を共有し、入院中もお見舞いに行った時に情報交換を行っている。	入院時には、介護サマリーや薬情で情報を提供している。入院中は家族とも連絡を取りながら面会に行き、病院関係者と状況確認や早期の退院に向け話し合いを行っている。必要な場合は、洗濯の支援も行っている。入院中に把握した情報や退院カンファレンスの内容を職員にも伝え、退院時には看護サマリーの提供を受け退院後の支援に活かしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護をしていない。グループホームとして施設での生活が困難になる前に介護3になった場合は特養等へ早めに申し込んで頂くように説明は行っている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に口頭で説明し同意を得ている。今後は、文書での説明を予定している。要介護3になった場合、また、事業所での生活が困難になった場合は、早い段階で家族・かかりつけ医を交えて今後の方針を話し合い、円滑なサービスの移行に向け支援している。話し合った内容は「生活記録」に記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務等の都合もあり全員が救急訓練に参加出来ず、スタッフの経験も様々な為、実践力が見についているとは言えない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も含め避難訓練を実施しているが地域との協力体制の構築が必要であるが自治会もなく困難状況にある。	今年度は、昨年6月に日中想定、デイサービス事業所と合同で、火災に対する避難訓練を実施している。訓練後に、振り返りを行い「実施結果記録」を作成している。12月に訓練を予定していたが実施するには至っていない。各階に、米・飲料水・レトルト食品・懐中電灯・カセットコンロ等を備蓄している。	年2回、夜間想定を含めた災害時訓練を実施し、全職員が避難できる方法を身につけることが望まれます。訓練に参加出来なかった職員には、訓練計画・実施結果記録の配布等で、訓練内容を周知することが望まれます。運営推進会議で、地域代表者に協力依頼を呼び掛けてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助を要する事が多く指示が入りづらい状況がありスタッフの声掛けもきつい言葉がけになることはあるが、その都度、スタッフ同士で注意し合えるよう努めている。	プライバシー保護に関する研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応についてはフロア会議でも注意喚起し意識向上に努めている。個人記録は各階のスタッフルームの鍵付き保管庫に保管している。利用者の写真は館内掲示に留め、外部には出さない等肖像権の適正な管理に努めている。職員の守秘義務についても入職時に誓約書を交わっている。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・自己決定が出来るケアが出来るように働きかけを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日をどう過ごすかを考えた支援が出来るように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選んだ洋服を着て頂いている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食器拭きが出来ておられたが拭き方が分からなくなりされていない。特定の方ではあるがご自分の食事の配膳・下膳をして頂いている。	厨房(業者委託)で調理された食事を提供し、炊飯・食事形態への対応は各フロア行っている。グループホーム・デイサービス・委託業者が参加して月1回給食委員会を開催し、利用者の希望や職員の意見を業者に伝えていく。誕生日や行事の際は、変化にとんだおやつを準備している。利用者の希望や力量に応じ、配膳・下膳に参加できるよう支援している。外食レクとして、年1回程度外食の機会を設けている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしている。食事量が減少している時はメイバランス等の栄養調整食品を提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時には口腔ケアの声掛けを行い実施している。義歯についても洗浄している。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>介助が必要な方は随時声掛けを行い定期的なトイレ誘導を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、随時声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。申し送り時やフロア会議で介助方法や排泄用品について検討し、現状に即した支援が行えるように取り組んでいる。利用者への声かけや職員間での伝達の際のプライバシーや羞恥心への配慮について、職員間で周知徹底できるように取り組んでいる。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>トイレに座っている時にお腹のマッサージを促したり、Drと相談しながら下剤の服用等もやっている。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>浴槽へつかる利用者さんへは入浴剤を使用したりしてゆっくりと浸かって頂いている。</p>	<p>週2～3回の入浴を基本とし、「生活記録」に入浴状況を記録している。2人介助や足浴・シャワー浴など、状況に応じて対応している。利用者毎にさら湯にし、自身のペースでゆっくり入浴できるように支援している。ドアと暖簾で、プライバシーに配慮している。入浴剤を使用したり、季節感を味わえるようゆず湯の機会も設けている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>体調によっては日中も臥床して頂けるようにしている。就寝時も個々に合わせた時間で休んで頂いている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>症状の変化に関しては追加となった薬を服用する際は様観して、状態に変化があればDrへ報告、相談し指示を仰いでいる。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>皆さんに楽しんで頂けるような行事の企画を立てている。</p>		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はこちらから声を掛け散歩や近くのドラッグストアへ買い物に出かけたりしている。また、外に出たいと言われれば何度でも散歩へ出かけている。	気候の良い時期には、日課として近隣への散歩やドラッグストア等へ買い物に出かけている。季節の外出として、初詣・花見・コスモス鑑賞等の機会を設けている。「生活記録」で個別の外出状況を把握しながら、車イスやデイサービスの車両を使用して、外出機会が均等になるよう努めている。	普段は行けないような場所へも、家族等と協力しながら出かける等、今後、外出の機会作りに取り組まれることを期待します。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆ど、管理者が金庫にて管理しているが持っていないと不安な方についてはご家族と相談し少額のみ持って頂いています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご兄弟から毎年年賀状や定期的到手紙が送ってこられるので、その都度、電話をかけて話をさせて頂いている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季毎にリビングの飾りを変えたり、行事毎に写真を撮っているので画用紙に貼り廊下に貼っています。	壁面に利用者と共に制作した作品や行事の写真等を飾り、また、季節に応じて桜・クリスマス等の飾りつけを行う等、生活に季節感を採り入れるように努めている。利用者が思い思いに過ごせるよう、適所にテーブル席・ソファを配置している。日課としての1日2回の体操、脳トレ、テレビ鑑賞、また、洗濯物干しや洗濯物たたみ、書類のシール貼り等、リビングで利用者個々の意向に沿った過ごし方ができるように支援している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いているので数人でソファに座りテレビを見たり、体操をしたりしています。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真等を飾ったり使い慣れた家具を持ち込んで頂いています。	居室はすべて洋室で、洗面台とタンスが備え付けられている。ベッドは使い慣れたものを持ち込まれたり、レンタルを利用している。整理ダンス・テーブル・椅子・テレビ等の馴染みの家具や、写真・装飾品・以前趣味としていたもの等が持ち込まれ、その人らしく生活ができる居室環境となっている。場所まちがい防止のために、入り口によくわかるよう掲示している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷われない様に居室やトイレの場所が分かる様に張り紙をしています。		